

明治の森箕面国定公園は指定50周年を迎えました。

季刊 箕面ビジターセンターだより NPO法人みのお山麓保全委員会・大阪府 発行

冬の森に大輪の花を咲かせるツバキやサザンカ。虫の少ない、寒い季節の花は、鳥たちに花粉を運んでもらいます。大きなしっかりとしたつくりの花なので、メジロのような小鳥は花びらにつかまって蜜をついばむことができます。食べ物の少ないこの季節、鳥たちにとっても花の蜜は貴重な食べ物だといえます。



左：サザンカと右：ヤブツバキ。蜜のある花の中心は、花粉のついたおしべに囲まれている。



メジロ



首をのばして、蜜をついばむヒヨドリ



花粉をつけたヒヨドリ

鳥たちの冬

寒い冬の森の中でも、元気に飛び回っている鳥たちの姿が見られます。食べ物も少なくなりますが、残った木の実や、まだ堅いけれども春に向けて少しずつ膨らみはじめた木々の芽を食べてしのぎます。その他にも冬の間に生きぬくために様々な工夫をしている鳥もいます。

カケスは、秋にどんぐりなどの木の実を地面の中にためておき、冬に掘り出して食べることが知られています。また、コゲラはくちばしで木を叩いて、中にいる虫を見つけて食べています。これは冬に限りませんが、コンコンコンとリズムカルに木をたたく音がよく聞こえます。



カケス



コゲラ

冬の森で春を待つ虫たち

うっすらと雪が積もる森の中。さえぎる葉がないために光が地面まで届き、その光が雪に反射していつもより明るく感じます。だけど澄んだ空気は冷たくて、暖かい季節には活発に活動していた虫たちの姿はなく、静かです。暖かい季節に活動していた虫たちはどこで暮らしているのでしょうか。



虫たちの冬越しの仕方は多様で、卵、幼虫や蛹、成虫とどの段階で冬を迎えるかは種類によってさまざまです。体温を維持することができない昆虫たちは、凍ってしまえば死んでしまいます。氷点下にならない暖かい場所を探したり、巣を作ったりと、周りの環境を整えるだけでなく、体内の糖分を高めて凍りにくい体にするなど、体内の環境も変えて万全の体制で冬を迎えます。



オオムラサキの幼虫(左上)

食樹のエノキの根元の落ち葉の中で越冬する。

ジャコウアゲハのサナギ(右上)

食草のウマノスズクサは冬になると地上部が枯れるので、食草から離れてサナギになる。

カブトムシの幼虫(左下)

クヌギやコナラの腐葉土の中で越冬する。

オオミノガの巣(右下)

季節にかかわらず、生活史のほとんどを小枝で作った筒状のミノの中で過ごす。

「カマキリはその年の雪の量を予測し、雪に埋まらない高さに産卵する。だから、カマキリが高い位置に卵を産んだ年にはたくさんの雪が降る」、というのを聞いたことがあるでしょうか？そう言われることもあります。カマキリの卵は空気層で包まれているので、たとえ卵が雪に埋まってしまったとしても、凍ったり酸欠になったりしないで、春になれば子どものカマキリがちゃんと生まれるようです。



産卵するオオカマキリ(左)、ハラビロカマキリと卵囊(右)
オオカマキリは主に細い枝に産卵するが、ハラビロカマキリは主に太い樹肌に産みつける傾向がある。

春の訪れ 立春をすぎると、早春の花が咲き始めます。この頃、空気はまだまだ冷たいですが、晴れた日には日なたに出ると、太陽の暖かさを感じられる日も増えてきます。ビジターセンター山野草園では、2月初旬のフクジュソウを皮切りに、様々な花が咲きます。開花時期は年によって変わりますので、目安として参考にしてください。



フクジュソウ (2月初旬～)



セツブンソウ (2月下旬～)



ミスミソウ (2月初旬～)



キクザキイチゲ (2月中旬～)



セリバオウレン (2月中旬～)



カタクリ (3月下旬～)

木々の花 箕面の春の訪れを告げる樹木の花たち。サクラよりも一足早く満開を迎える木の花を紹介します。



アセビ



ダンコウバイ



キブシ

冬の動物たち 動物たちは寒くなる前に、冬を乗り切るため、冬毛に生え替わります。この時期の動物たちはふわふわの毛に覆われていて、ふっくらと暖かそうですね。定点カメラで1年を通して動物を観察するとその様子がよくわかります。シカの場合、夏毛と冬毛では、毛の色や模様も変わります。「鹿の子模様」は名前の通り、シカの幼獣にはっきり現れますが、成獣の夏毛にも見られる模様です。これは、夏場の木漏れ日の当たる林床に溶け込む模様とされています。一方、冬毛は灰色がかった茶色をしていて、緑の少ない、薄暗い林床に溶け込んでいます。体温調節だけでなく、毛の色を変えて周囲の環境に溶け込み、身を隠す工夫をしているのです。



シカ (左:夏毛、右:冬毛)

鹿の子模様



テン (上:夏毛、下:冬毛)

毎月 第2日曜は「自然工作教室」の日！

箕面ビジターセンター講義室で、小さな木の実などの自然素材を使って、工作を楽しみましょう！
《家族向け》

1月14日(日)、2月11日(日)、3月11日(日)



12:30～15:00ごろ

☆雨天決行(警報発表時は中止)
☆箕面ビジターセンター集合
☆参加費: 1作品につき100円
☆申込: 当日受付、先着30名
☆協力: 一休さんの自然工作教室

冬越しの昆虫を見つけよう！

冬の間、虫たちはどこでどのような姿で越冬しているのでしょうか？
自然解説員と一緒に探しましょう！ 《家族・一般向け》

2月18日(日) 12:30～15:00ごろ



☆少雨決行(警報発表時は中止)
☆箕面ビジターセンター集合
☆参加費: 100円 子ども無料
☆申込: 当日受付、先着15名
☆協力: 箕面VC自然解説友の会

新春ハイキング 役行者ゆかりの天上ヶ岳を訪ねて

ビジターセンターから役行者のお墓のある天上ヶ岳までをゆっくり歩く、ハイキングを楽しもう。 《家族・一般向け》

1月21日(日) 12:30～15:00ごろ



☆雨天中止
☆箕面ビジターセンター集合
☆参加費: 100円 子ども無料
☆申込: 当日受付、先着15名
☆協力: 箕面VC自然解説友の会

箕面川ダム周遊ツアー「みんなで春を見つけよう！」

箕面川ダムの周りをゆっくり歩きながら、野鳥や植物を観察します。
ひと足早い春の訪れを感じられるはずです。 《家族・一般向け》

3月18日(日) 12:30～15:00ごろ



☆少雨決行(警報発表時は中止)
☆箕面ビジターセンター集合
☆参加費: 100円 子ども無料
☆申込: 当日受付、先着15名
☆協力: 箕面VC自然解説友の会

「政の茶屋園地」内での火器の使用について

政の茶屋園地内では、火器の使用を禁止していますが、炊事棟内(調理台の上)に限って、携帯コンロが利用できます。ビジターセンター開館日・開館時間に限って使用可能です。
※大型コンロの使用はできません。
火器の扱いには十分注意してください。



山火事防止にご協力をお願いします

冬は空気が乾燥しているため、いったん山火事が発生すると、急激に燃え広がる恐れがあるために、十分な注意が必要です。
林内でのたき火は禁止です。
タバコは許可された場所のみで喫煙し、吸殻は必ず消して投げ捨てはしないでください。
携帯コンロは許可された場所のみで利用してください。



箕面ビジターセンター(政の茶屋園地)

住所: 〒562-0001 箕面市箕面1576 Tel/Fax: 072(723)0649

■ 開館時間: 10時から16時迄(4月から11月の土日祝は9時30分から17時迄)

■ 休館日: 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月4日)
※施設や駐車場は利用できませんが、入園は可能

【電車ご利用の方】 ※時刻表は変更の可能性がありますのでご確認ください

- (1) 阪急箕面線「箕面駅」下車、箕面大滝を經由して徒歩約90分
- (2) 阪急バス「千里中央駅」乗車、「勝尾寺」下車徒歩約30～40分

「千里中央④停留所」発車予定時刻

(粟生団地経由、勝尾寺、北摂霊園方面行) * 午前の時刻を表示

平日 9:10、11:15 / 土・日祝日 9:00、9:55、10:55

「勝尾寺停留所」発車予定時刻 (千里中央方面行) * 午後の時刻を表示

平日 13:28、16:31 / 土・日祝日 12:31、13:38、14:26、15:23、16:48

【マイカーご利用の方】

新御堂筋国道423号を北上、白島交差点を左折、箕面浄水場を右折、府道豊中亀岡線を北上(約5km)

編集後記: 寒い季節ですが、うっすらと雪が積もった山は年に数日、この時期にしか見られない美しい光景です。青空が広がる日は暖かい服装でハイキングに出かけてみましょう。落葉した枝の間を飛び交う小鳥たちに出会えるはずです。

NPO法人みのお山麓保全委員会 Tel/Fax: 072(724) 3615

HP: <http://yama-nami.net/> (検索/山なみネット)

